

第8回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム報告

久留米工業大学 佐塚秀人

第8回全国大学コンソーシアム研究フォーラムにおいての2つの分科会、第2分科会「大学コンソーシアムサテライトキャンパスの活用」と第6分科会「eラーニングの可能性」について報告をする。

第2分科会（ネットワーク大学コンソーシアム岐阜）

テーマ：大学コンソーシアムサテライトキャンパスの活用

1日目の第2分科会では、サテライトキャンパスの活用をテーマに次の3件の報告と意見交換が行われた。

コーディネータ：加藤直樹氏（ネットワーク大学コンソーシアム岐阜）

- ①「地域生涯学習拠点と大学コンソーシアムのあり方」木村光伸氏（大学コンソーシアムせと）
- ②「活動拠点カレッジプラザ及び秋田大学分校を活用した秋田県内大学等による教育資源提供活動の報告」藤井和明氏（大学コンソーシアムあきた）
- ③「岐阜駅サテライト教室を活用した事業展開と課題」加藤直樹氏（ネットワーク大学コンソーシアム岐阜）

報告にあった3つのコンソーシアムは、サテライトキャンパスを市民講座の開催場所といった地域向けの大学の共用施設という機能だけでなく、加盟校の学生の活動のベースとして利用している点が共通点と挙げられる。コンソせとでは合同大学祭の実施とそのベースとしている、秋田は分校という名前で、中心地だけではなく遠方の役所等に拠点を置き、学生の地域活動への参加を支援している。高校、中学の教育を支援するという役割をもっているのも特徴である。コンソ岐阜は岐阜駅前という場所を生かし、低価格で受講できる市民講座と単位互換講義の拠点として活用している。

サテライトキャンパスが、場所を提供するという目的だけではなく、学生と市民、大学と行政をむすびつけるという有機的な機能を果たしている。また、密度を高めた講座や教室が運営されており、常にさまざまな講座が開かれてい

るという雰囲気を作っている。場所の提供だけではなく、交流の空間としてうまく機能できるように今後の活動を考えていくことが大切だと感じた。

第6 文科会（大学コンソーシアム京都）

テーマ：e ラーニングの可能性

2日目の第6分科会では、e ラーニングの有効性、コンソーシアムでの e ラーニング運用、認証についての報告・意見交換が行われた。

コーディネータ：渡邊康晴氏（明治国際医療大学医療情報学講師）

①「E-LEARNING のもつ可能性 -教育の質保証に向けて-」宇佐川 毅氏（熊本大学大学院自然科学研究科）

②「e ラーニングシステムの共有化とコンソーシアム内での構築について」阿部一晴（京都光華女子大 情報教育センター）

③「認証を活用した地域連携にむけて」中村素典氏（国立情報学研究所）

最初の宇佐川氏は熊本大学における e ラーニング教育の事例を報告してくれた。1800 名が受講する 1 つの科目を 10 名の教員で担当するような環境において、e ラーニングは教育の質の保証と、効果的な基礎力定着を保証してくれる。前回の講義内容を確認する小テストを共通化し、結果のフィードバックしながら、繰り返し実施することによって、学生は自分の学力の位置づけや変動を常に把握し、より高得点が得られるように常に努力をするようになるという。講義の内容を他の教員にも見えるようにすることによって、教育内容の質も安定させることができる。e ラーニングは綿密な設計と十分な事前準備が重要だとまとめていた。

次の阿部氏は、e ラーニングシステムを運用している立場から、コンソーシアムで e ラーニングを運営する立場の報告があった。e ラーニングをコンソーシアムの事業の中に位置づけていくためには、各校の連携体制、連携するための十分な準備が必要になる。教員向けのマニュアル作成、学生の ID 管理、受講登録等は重要な要素といえる。複数の大学間で単位互換制度を実現できるよう LMS 運用するためのしくみが必要である。

LMS の管理には集中型 LMS、分散型 LMS という 2 方式があるが、分散型では共通認証の仕組みが必要となる。GakuNin 導入が今後有益だろうとのこと。

最後の報告は、GakuNin によるシングルサインオンの説明であった。一度の

認証でさまざまなネットワーク機能を利用できるシングルサインオン機能は、コンソーシアムでの e ラーニングシステムにおいても有用である。GakuNin は Shibboleth という認証フレームワークを用いており、ID プロバイダサーバの IdP と、サービスプロバイダ SP から構成される。これらのソフトウェアは、無料で利用することができ、GakuNin に参加することで、共通認証基盤を利用することができる。ユーザ ID の共通化ができることで、大学の組織を超えた履修管理等で様々なメリットが得られることが考えられる。しかし、この認証基盤は、学術組織での利用に制限をされているため、学生は問題ないが、学術組織に属さない一般市民の利用という点では、問題があるといった話もあった。